



さあ、金沢の
おいしい秋へ

10月は金沢食文化月間

in
兼六園

殿さまが愛した
お茶と和菓子



加賀藩主に供した、おめでたい「嘉祥の菓子」が現代に蘇りました。
招福を願って白亀を表したお饅頭は、江戸時代の見本帳「金沢城二ノ丸料理方菓子書留帖」から老舗の菓子店が再現。今から350年前の兼六園は、藩主が忙しい日常を離れ、親しい家臣たちとお茶を楽しみ、心を癒す場所でした。今回、藩主ゆかりの生菓子を期間限定で販売します。お殿さまの気分になって、秋の景色とともにご賞味ください。



五代藩主前田綱紀公（前田育徳会蔵）

期間：令和7年10月1日～10月31日

期間中、特別名勝兼六園内の茶店にて召し上がれます。

協力：金沢城・兼六園研究会、落雁諸江屋

お問合せ 兼六園観光協会 TEL 076-221-6453





「嘉祥の菓子」

藩主に供した饅頭を再現



in 兼六園

お茶と和菓子

殿さまが愛した

藩主の茶事ゆかりの三亭

庭園美を眺めながら、縁起のよい「嘉祥の菓子」をお召し上がりください。



三芳庵

茶室「夕顔亭」に隣接する料理茶屋「三芳庵」は、代々の主人が加賀藩ゆかりの宗和流をたしなむ家。11代藩主・治脩が滝見の茶会を開いた瓢池のほとり、滝の音を聞きながら殿さまが好んだ饅頭とお抹茶をどうぞ。



内橋亭

江戸期には「馬見の御亭」と呼ばれ、藩主が調馬を見学したり賓客をお迎えした場所でした。霞ヶ池に浮かぶ茶室は、5月7日の開園記念日に茶席が設けられ、水面の光と薫風が包まれながらお抹茶をいただけます。



兼六亭

お店がある場所は、5代藩主・綱紀が建てた「蓮池御亭」の跡で、兼六園始まりの地です。藩主が亭主となり、月見の宴や口切茶事が開かれました。窓の外には日本最古の噴水が、動力を使わずに、今も上がり続けています。

諸江屋の生落雁とお抹茶



東山

「濃茶落雁」

加賀藩に献上されていたお茶と同じ濃茶用の抹茶を使い、茶葉を挽く石臼の型に仕上げてあります。こっくり甘いつぶ館がお抹茶とよく合います。



堤亭

「加賀宝生」

金沢は「空から謡が降ってくる」と言われるほど能楽が盛んな町。5代藩主・綱紀が稽古した宝生流が町人にも広がり加賀宝生と呼ばれました。



城山亭

「方丈菓子」

一休禅師が節分の豆で創案したと伝えられる伝統菓子。州浜を落雁で挟んだ素朴な味わい。京田辺の一休寺は、加賀藩3代藩主の前田利常が再建しました。



- 「嘉祥の菓子」と抹茶 1,000円（税込）【数量限定】 三芳庵、内橋亭、兼六亭で提供
[原材料 砂糖、小豆、米粉、山芋]

※数量限定品のため、売切れ次第終了となりますことご了承ください。

- 生落雁と抹茶 850円（税込）【数量限定】 東山、堤亭、城山亭で提供

※店舗によって休業日や営業時間は異なりますので、兼六園観光案内所（桂坂口手前左）にてお確かめください。

兼六園めぐり



お問合せ 兼六園観光協会 TEL076-221-6453